

令和3年度 京都府立洛北高等学校 学校経営計画（計画段階）

学校経営方針	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>京一中の良き伝統を受け継ぎ、学業、特別活動、スポーツ・文化活動等のあらゆる面で京都府の中核校を目指す。</p> <p>(1) 中学校と高等学校の教職員の相互理解を図り、中学校と高等学校が一体となった組織運営を確立する。</p> <p>(2) 生徒指導、学習指導を両軸として、校訓の浸透に努め、心豊かな人間の育成を目指す。</p> <p>(3) 普通科文理コース・普通科スポーツ総合専攻・サイエンス科（中高一貫コース）の特色を最大限に生かした教育の推進と特別活動等の一層の充実を図る。</p>	<p>◇ 新型コロナ等の感染予防対策や緊急事態宣言の中、様々な行事の中止や再考を迫られたが、全生徒・全教職員の協力により、工夫しながら乗り切ることができた。</p> <p>◇ 年度途中に中間総括を行い、学校全体として重点的に取り組むべき課題について焦点化し、教職員の共通理解を深め、取組が定着した。</p> <p>◇ コロナ禍の社会情勢の中、地震による火災を想定した避難訓練を実施できなかった。次年度は消防署員、地域の消防団員の協力の元、防災意識を高める取組を工夫する必要がある。</p> <p>◇ 次期学習指導要領を見据えた教育課程編成について具体化をすすめた。</p> <p>◇ 各教科で目標を立て、研究授業等を通して授業改善を図った。今後はICT技術を活用した効果的な学習のあり方についてさらに研究をすすめる必要がある。</p> <p>◇ 特別活動において生徒が主体的に取り組む姿勢を育むことができた。部活動等において生徒の顕著な活躍が増えた。学習と部活動の両立については、顧問、クラス担任、各分掌、教科担当の連携をさらに深める必要がある。</p> <p>◇ 定期的に学力向上検討会議や模試分析会を開催し、多角的に生徒の学力分析に努めることができた。</p> <p>◇ 系統的・計画的に人権学習を進めることができた。今後さらに教育活動全体で人権学習に取り組む体制の構築が必要である。</p> <p>◇ 特別な支援が必要な生徒に対し、関係教職員や外部関係機関との連携を図り、適切な指導体制を組むよう努めた。</p> <p>◇ 学校説明会やホームページ等を通して学校の情報を広く発信することができた。これにより、本校志願者数の増加がみられた。</p> <p>◇ SSH事業第4期中間評価における課題の改善を意識して実施した。また、第4期のまとめを行うとともに第5期指定に向け、構想・計画等の具体化を進める。</p>	<p>① 質の高い学力をはぐくむ ・高大接続改革を見据え、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を図り、授業力向上を目指す。 ・中高一貫校、単位制の長所を生かし、各コースの特色に応じた講座編成の工夫等を図り、生徒一人一人の希望進路の実現を目指す。</p> <p>② 豊かな人間性をはぐくむ ・学校教育全体を通じて、人権感覚豊かな教育環境を構築する。 ・連携機関や外部人材の協力による様々な体験を通じて多様な価値観に触れ、グローバルな感覚やチャレンジ精神を身につける機会を提供する。</p> <p>③ 健全なる心身をはぐくむ ・基本的な生活習慣を身につけた心身ともに健康な生徒の育成を目指す。 ・学校における健康安全教育の充実を図り、学校環境の整備と安全を確保する。</p> <p>④ SSH事業の充実 ・第4期の目標達成に向け、継続して取り組むとともに、第5期指定に向けた準備を進める。 ・外部へも積極的に発信し、府立高校の特色化事業にも生かしていく。</p> <p>⑤ 学校の教育力の向上 ・学校組織マネジメント力を向上させ、学校の目指す方向性について中長期的及び短期的なビジョンを構築する。 ・開かれた学校づくりを進め、学校の取組を学校説明会やホームページで積極的に発信するとともに、家庭や地域社会との連携を学校運営に生かす。 ・コンプライアンス意識の向上を図り、地域社会や家庭から信頼される教育活動の推進を図る。 ・ICT機器・教育アプリ導入に伴い、授業内での積極的な活用と効果的な活用方法の研究を行う。</p>